

土木森林環境委員会 県内調査活動状況

1 日 程 平成29年11月10日(金)

2 委員出席者(7名)

委員長 飯島 修

副委員長 渡辺 淳也

委員 前島 茂松 浅川 力三 河西 敏郎 山田 一功 佐藤 茂樹

欠席委員 永井 学 上田 仁

地元議員 望月 利樹(南巨摩郡) 森林総合研究所の調査に出席

3 調査先及び調査内容

(1)【森林総合研究所】(富士川町)

調査内容(主な質疑)

問) ニホンジカに関するモニタリング調査についてであるが、実際のところ、ニホンジカの被害というのは相当あると思うが、ここまでの研究成果を教えてください。

答) ニホンジカについては、毎年1万頭余を駆除しているところである。モニタリング調査では、ニホンジカがどのぐらい生息しているかを監視するため、カメラを県内3カ所、牧丘に30台、本栖に30台、甘利山に14台設置し、年に2回、そのカメラを回収し、確認している。また、年間7,000から8,000頭分の、捕獲した鹿の歯を森林総合研究所に持ち込んでもらい、その歯で年齢を査定し、何年生の鹿なのかを確認している。また併せて、雄なのか、雌なのか、妊娠しているのかといったところもチェックし、妊娠率が高くなっているのかどうかといったことについても確認し、ニホンジカがどのようにふえているのか、また、減っているのかというところを研究している。

問) 松くい虫の発生について、昭和61年から相当被害が出ていて、甲斐市の北部も、昇仙峡を含め非常に松くい虫被害が多く、木が立ち枯れてしまっている。最初の一、二年はひどく茶色く見えても、立ち枯れると白くなって、あまり目立たなくなると、松くい虫の被害が何となく終わったようなイメージになってしまっている。昭和61年から防除適期を調べているわりには、新年度予算がつくと、現実には2~3月が防除の適期であるにもかかわらず、年度当初に伐採している。防除適期をある程度把握できているのであれば、それに基づいた予算執行をしたほうがいいと思うが、その辺も含め、研究成果を教えてください。

答) 委員の御質問は20番の松くい虫発生予察事業についてだと思うが、この事業では、昭和61年から松くい虫の発生時期を調査している。松くい虫の被害に遭い、マツノザイセンチュウの幼虫が入っている松の木を、毎年70本ぐらい、森林組合から森林総合研究所に搬入をしてもらい、中の幼虫が成虫になり、羽化して木から首を出すのがいつなのかを調査をしている。この24年間の平均でいうと、5月30日に最初に羽化した成虫が飛び出すということがわかっており、今年度は5月31日に羽化して飛び出している。いつごろ発生するのかといった調査内容は、関係各機関等に情報提供し、その前に防除するよう伝えるなどしている。

問) 5月30日に羽化するといった情報に対し、本課としてはどういう対応をしているのか。

答) 森林総合研究所から松くい虫の初発について報告があると、各林務環境事務所や市町村に情報提供している。木を切って薬剤で薫蒸する伐倒駆除は、虫が木の中にいる4～5月中にしないと意味がないので、初発の日に合わせて、各林務環境事務所や市町村には目安を示すようにしている。

問) パンフレットにスギ少花粉品種の記載があるが、山梨県独自でスギ少花粉品種を開発しているのか。あるいは全国的な問題なので、林野庁から委託を受けて開発しているのか。また、山梨県で研究したものが全国に苗として提供されているのか。

答) 花粉の少ない新品種の選抜調査は国でも行われているが、山梨県でも研究を行っており、平成13年から採種園で、鯉沢17号と吉田103号という名前の苗木を育成し、山行苗として、平成18年から供給可能な状況にしている。

問) 松くい虫対策に成功したところ、場所はあるか。

答) 富士山周辺で、防除により、高標高のところに上がらないよう食い止めている事例はある。

問) 以前は標高1,000メートル以上には松くい虫は来ないという話も聞いていたが、私が住んでいる地域では標高1,300メートルぐらいまでは来ている。

関連して聞くが、山梨県下には銘木がかなりある。天然記念物といった木は残したいが、そのためには、例えば、半径何キロといった範囲の中の防除をしていくほうが大切である。私の知る限り、北杜市ではほとんど残っていない。武川町の萬休院の松や白州町横手の松も枯れ、今残っているのは、おそらく1本しかない。その辺について、県は何か対応をしているのか。

答) そういった銘木については、樹幹注入剤などを入れて被害を防除するといった対策をとっているところである。

答) 県では緑の相談所を設けており、そこには樹木医がいる。松を見てほしいとか、松を保存してほしいという相談があると、樹木医が行って指導をしている。対応としては、樹幹注入といったものが中心となっている。それほど規模が大きい森林ではないため、そういった治療による対応をしているが、森林でも事前の防除は必要であるため、平成27年度からは樹幹注入を県有林に拡大し、事前に予防するといった対策も始めている。

問) 樹幹注入したり包帯を巻いたり、いろいろしているのを見るが、松が枯れているところが周辺に多いため、今後、天然記念物を所管する教育委員会等と横の連絡をとりながら、森林環境部が中心となって対策を進めていくことを要望する。

次に、私がこの研究所を訪れるのは3回目だが、レッドデータブックに載るような高山植物等も培養していたと思う。以前訪問したときに、タカネビランジの培養を見たが、タカネビランジは北岳に多いのか。どのような状態なのか。今も生育をしているのか。培養した株を自然に戻すことはできるのか。

答) 高山植物等については研究課題の中で幾つか取り組んでおり、希少植物については培養等を行っている。先ほどのタカネビランジについては、増殖・保存技術の開発ができ、植栽用の植物の育成は可能な状態にはなっている。ただ、それを現地におろすかどうか、そういった形で自然に出していいのかどうかというところは、また専門家と相談をしながら慎重に審議しなければならないため、研究所としては、現地に下ろせる体制がとれるようにはしている。

問) 生態系の問題があるため、現地におろすのがいいのかどうか何ともいえないが、大切なも

のなのでぜひ成功させてほしい。

玄関のところにトリュフの展示があったが、1週間ぐらい前にNHKのトリュフに関する番組を見ており、なかなかいい取り組みをしていると思った。研究の現在の進捗状況を説明してほしい。

答) トリュフの研究については、今年度から国の委託事業を受ける中で取り組んでいる。トリュフは、ナラやクヌギ、クリといった木の根に菌がついてから、7年くらいしないと出てこない。今年度から、クリの大苗や小苗、全部で160本ぐらいに植菌をし、観測を始めている。

玄関のロビーに展示してあるので、この後、担当研究員から詳しい説明をさせてもらう。

問) 18番の薬用植物の種苗生産方法の確立に関する研究について、全国的にいろいろな県で取り組んでいると思うが、シミック株式会社と連携等はしているのか。

答) シミック株式会社とも連携をしながら、研究を進めている。

問) どのような種類の薬用植物の研究をしているのか。

答) 18番の研究課題の中では、カンゾウの種の採取について研究をしているのが一つ。もう一つはダイオウであるが、すでに研究は終わっており、普及に取り組んでいる。

問) 31年まで研究を行うとのことだが、成果を楽しみにしている。



概要説明を受け、質疑を行った後、施設内の視察を行った。

(2)【西関東連絡道路・甲府山梨道路 期(山梨市東地内)】(山梨市)

調査内容(主な質疑)

問) 私も利用しており、非常に便利な道路だが、西関東連絡道路という名前からして、最終的にはどこまで行くのか、全体像を教えてください。

答) 西関東道路全体は、埼玉県熊谷市が起点になっており、山梨県では今、甲府山梨道路と言われている9.3キロの区間の工事をやっている状況である。

問) 埼玉県と山梨県間の状況を教えてください。雁坂トンネルを使うとか。そうすると、この先はもう当面ないということか。

答) 山梨県側では今回の区間が最終工区になるが、その先、広瀬ダムの前後には、3車線化などの道路改良を行っている区間があり、またその先は委員もおっしゃるとおり、雁坂トンネルを使い、埼玉県側へ抜けていくという状況である。

埼玉県側については、用地買収がおこなわれている状況があるが、その先の秩父市の皆野寄居バイパスを改良している状況である。改良後、最終的には関越自動車道の花園インターチェンジまで繋がる予定である。

問) 花園へは私も行ったことがあるが、大滝村からそこまではかなり距離がある。埼玉県側の整備の状況を教えてください。

答) 埼玉県側では今、皆野寄居バイパスを整備しており、一部が今年度開通と聞いている。また、こちらの雁坂寄りの整備が少しおこなわれているが、順次、埼玉県側から整備すると聞いている。



概要説明を受け、質疑を行った後、現地の視察を行った。